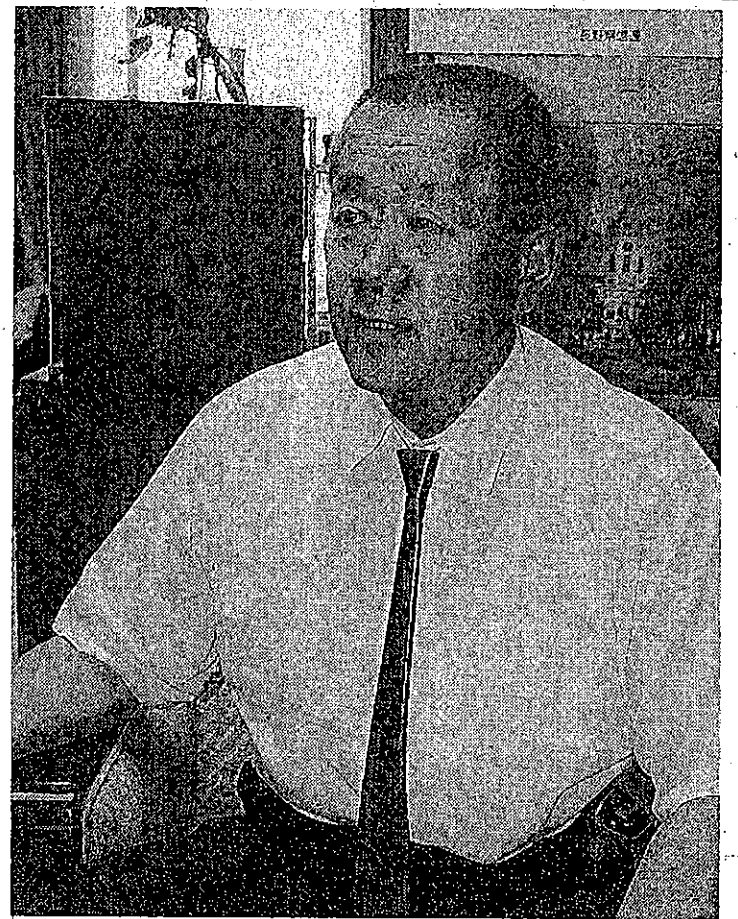


対峙で見えた功罪



たかぎらんこ 高木蘭子 県議会県民クラブ・公明

45年、富士見町出身。東大中退。小諸市議を経て、03年に初当選。夫が経営する小諸新聞社の社員。



しまだもとまさ 島田基正 県議会トライアルしなの

45年、上田市生まれ。慶応大法学部卒。上田第三木材合資会社社長。91年初当選。社会衛生委員長などを歴任。4期目。

「個」の痛みには聞く耳

無慈悲なカリスマ必要

「最初から田中知事を支持していたのですか」
00年の選挙では、副知事から立候補した池田典隆氏を応援した。
「政治」は、地域の人がつなぐべきもの。「まつり」は、そのお手伝いをするのが政治家。役人は、さらにそれを手伝える存在だ。しかし、その役人が、分配構造の真ん中に座って

仕切るのはおかしな話だ。議員は、当選回数を重ねて、自分の後援会、市町村長、組織団体とのつながりがあり、なかなか

「ムラ」から逸脱できない。議員は、当選回数を重ねて、自分の後援会、市町村長、組織団体とのつながりがあり、なかなか

4県議の見方

対論 田中県政とは

田中知事の「対抗軸」の象徴と見られてきた県議会。議場で対峙してきた県議からみると、田中県政の6年間はどうか評価されるのでしょうか。最大会派だった旧県政会から、数少ない「知事派」に転じた島田基正さん。田中県政には中立的立場で03年に初当選しながらも、その後「反対派」に転じた高木蘭子さん。2人に聞きました。

(文中の注1～8の説明は下欄参照)

◆この企画は随時掲載します。

知事は、県議会議員とではなく、自ら20万人県民と直接、調整するといえます

車座集會に参加したのはのべ1万5千人余り。1人で20万人全員の声が聞けるわけではない。58人いる県議の方が、はるかに多くの人の声を聞いている。県議も住民の代表だ。意見が対立する問題では、調

整が必要になるが、知事はそれを嫌う。かつては組織団体や市町村から来る声が大きかったかもしれない。今は知事に直接、メール

声は取り上げるが、そうでないものは、たとえ必要に迫られて上げた声でも取り上げられない。

私に直接かかわり「削られる痛み」を味わった例では、老朽化した地元高校の体育館への対応がある。床が抜けそう、改修が必要だった。あと一歩で予算が認められるところだった

意に反す声取り上げず 納得する手順示さない

木製ガードレールには予算をつけるが、道路にはつけないとか。佐久市で児童館をつくりたいという要望があったが、県が補助金を出さなかったで困った

希望が示されぬまま、先送りされた。少子化が進み、財源が限られた中ではじょうがないのでは

地域の要望を地方事務所などを通じて上げていった時、本庁で「知事に認められそうにないから後回しに」といって話を県職員からよく聞く。せつかく手順を踏んでも、知事の胸三寸でひっくりかえってしまう

高校再編では、県教委の検討会が98年、「入学者が一定以下の状況が続いた場合」など、募集停止に至るまでの手順をつづった

もしれない。それが、安定

しかし、今回は、手順も

「なぜ、支持に転じたのですか」
初当選から間もなく、強烈な印象を受けた。児童木工コンクールで、ろうあの子どもがつくった「叫び」という作品が県知事賞となった。その表彰式で、賞状を読みながら知事が泣き出した。声なき声を聞き、「個」の痛みを光を当てる「やさしさ」を見た。

「個」の痛みを光を当てる「やさしさ」を見た。予算の使い方が社会資本を劣化させてきた。コンクリートではんそうこうをはり付ける冷山冷水は、生態系をこわし、命のつながりを断つ。既得権益にすぎない業者が食いぶちをあてがう

「責任を感じ、祖先に感謝して祭りをしよう」となった。県議への根回しに時間を使うよりも、自ら飛んで歩いて、直接、県民と協働したいと、知事は考へてくるんじゃないの。

「新党日本の党首」(注4)になるなど、県政より国政に関心があるとの批判があります

「新党日本の党首」(注4)になるなど、県政より国政に関心があるとの批判があります

2氏が取り上げた6年間の話題

(注1)江戸時代の宿場の面影が残る街道沿いの灯籠(とろろ)26基の設置は、県が地域独自の取り組みを支援す



江戸瓦を再利用した旧北国街道の灯籠(左)は上田市中央4丁目

る「コモンズ支援金」を活用。工費194万円のうち約130万円の補助を受けた。

(注2)02年の出直し知事選に次点で落選した弁護士の長谷川敬子氏は、多くの県議の支援を受けていたが、「議会の操り人形ではない」と主張した。

(注3)県職員労働組合が昨年11~12月に実施した組合員意識調査で、田中知事の支持率は3.6%にとどまり、知事と県職員の信頼関係について「評価しない」「やや評価しない」は合わせて88.1

%にのぼった。全組合員の75%にあたる5133人が回答した。

(注4)田中知事は昨年8月の衆議院の「郵政解散」後、自民党を離党した滝実衆院議員、荒井広幸参院議員らと新党日本を結党、代表に就任。9月の衆院選では比例区で計164万票余りを獲得した。

(注5)放課後の小学生が集う児童館整備のための厚生労働省の補助事業は、県で申請が通らないと、国の補助がつかない。県は03年度までは市町村の要望に応じて事業を採択していたが、04~05年度では長野市の1館を除



県教委が開いた高校改革プランの説明会。反対する生徒らが詰めかけた。長野市内で

き、財政難を理由に採択しなかった。宅幼老所(コモンズハウス)は、地域における高齢者、子育て、障害者の支援拠点で、県の福祉政策の柱。

(注6)県教育委員会は07年度から、現在89校ある県立高校を79校(多部制・単位制を含む)に再編する。多部制・単位制は08年度からの実施予定。しかし、統合対象

校を抱える地域では、卒業生らから強い反対が出ているところもある。

(注7)前知事時代の98年、県教委の高校教育改革検討委員会は、入学者の減少による高校の募集停止の詳細な基準を盛り込んだ「高校教育の改善充実について」をまとめた。

(注8)知事後援会の元幹部による県下水道事業への働きかけなどを調査するため、県議会が05年7月に設置。06年3月、証人尋問で田中知事が虚偽の陳述をしたと認定した報告書を賛成多数で可決し、地方自治法違反の疑いで知事を長野地検に告発した。

体験・意見お寄せください

県の課題や政策、知事選などをテーマにした対論を随時掲載しています。あなたの体験や意見、感想をお寄せください(連絡先を明記)。

<電子メール>
chijisen-nagano@asahi.com

<ファクス>
026・223・7331

<郵便>
〒380-0921

長野市栗田989の1
長野朝日放送5階

朝日新聞長野総局